

ポジティブな行動支援による いじめの未然防止



平成31年 3月

倉敷市教育委員会





ポジティブ行動支援によるいじめの未然防止

枝廣 和憲（名古屋市立大学人間文化研究科）

いじめの認知件数は、2017年度に、41万4378件と過去最多を更新しました。背景には、いじめに対する認識が深まり、先生方が早期対応をされていることもあります。いじめの未然防止には、先生方のポジティブ行動支援（PBIS/PBS）が重要なカギとなります。先生方のポジティブ行動支援により、学級や学校がポジティブな環境になることで、いじめのようなネガティブな行動問題を減少させることができます。具体的にみていきましょう。

児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議（1996）の「児童生徒のいじめ等に関するアンケート調査結果」によると、児童生徒のいじめの訴えを担当にすると、約半分は解決し、約半分は未解決になっています。栗原（2013）は、アセス（学校適応感を測定するアンケート）の分析結果から、いじめの解決には、「教師サポート」が重要であるとしています。そして、「教師サポート」を高めることで、友人関係や向社会的スキルなどを通して、いじめを解決できるとしています。つまり、ポジティブ行動支援を行うことで、直接的に、「教師サポート」が高まると同時に、学級や学校などがポジティブな環境となり、いじめの未然防止につながります。

ポジティブ行動支援とは、いったいどのようなことをさすのでしょうか。私たちは、身近にいるとどうしてもネガティブな行動に「注意」を向けがちです。授業中、立ち歩いている子どもと前を向いて座っている子どもがいたとします。そうすると、私たちは、立ち歩いている子どもに「注意」を向け、何かしらの声かけをします。けれど、前を向いて座っている子どもに対しては、「注意」を向け、声かけをすることはあまりないと思います。また、立ち歩いている子どもも常に立ち歩いているわけではなく、前を向いて座っていることが必ずあると思います。ここに、「注意」を向け、ポジティブな声かけを行います。「立ち歩く」という行動と「前を向いて座る」ということは同時にできない行動ですので、相対的に「立ち歩く」という行動は減少し、「前を向いて座る」行動が増加します。このように、ポジティブ行動支援は、『「ポジティブ行動」にポジティブに（積極的に）「注意」を向ける』ということと、『「ポジティブ行動」があったときに、「ポジティブな声かけ」のようにポジティブに（肯定的に）支援する』ということの大きく二つの意味があります。

そして、もう一つは、学級や学校をポジティブな環境にしていくことが求められます。平成29年版子供・若者白書では、学校に居場所がある（そう思う・どちらかといえばそう思う）と答えた子どもは49.2%にしか達していません。これを解決するためには、『具体的に何をすることが「ポジティブ行動」なのか』を事前に具体的に示していきます。学級目標や学校教育目標などを参考に、何のためにするのかという「価値」や「期待」を、「行動レベル」にして、それを視覚化していきます。こうすることで、具体的なポジティブ行動が子どもたちに理解しやすくなり、その行動をとりやすくなります。

これらを組み合わせて、学級や学校をポジティブな環境（居場所）にしていくことで、先生方と子どもたち、友だち同士などのポジティブな関係ができ、いじめを未然に防止することにつながっていきます。改めて、いじめの未然防止を考える際、いじめのない環境（学級や学校）とは、どのような状態なのか、行動レベルで考えると、どのような行動があると、いじめのない環境なのかと視点を変えて考えることが大切になってきます。先生方の一つ一つの声かけがポジティブな環境（居場所）づくりを促進し、いじめの未然防止につながることを心より願っています。

はじめに

いじめ問題への対策の推進（国・県・市・学校）

学校において喫緊の課題となっているいじめ問題への対策として、平成 25 年に「いじめ防止対策推進法」が施行されました。また、国において「いじめの防止等のための基本的な方針」が策定され、学校にも「いじめ防止基本方針」の策定が義務づけられました。

平成 29 年 3 月には、その国の基本方針が改定され、「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」も策定されました。岡山県においても、平成 26 年策定の「岡山県いじめ問題対策基本方針」が平成 30 年 1 月に改定され、倉敷市でも同様に、平成 26 年策定の「倉敷市いじめ問題対策基本方針」が平成 31 年 3 月に改定されました。このように、いじめ問題への対策は、より一層の充実が求められており、「いじめの未然防止」は学校が果たすべき責務として重視されています。



「問題対処型指導」とともに「積極的・開発的指導」を！

近年、いじめをはじめとする問題行動に対する児童生徒への指導の在り方においても、従来の問題行動に着目する対処型の指導とともに、適切な行動に着目する積極的・開発的指導を推進することによって、児童生徒の人間関係の質を高め、問題行動の未然防止を図ることの重要性が強調されています。平成 29 年度、倉敷市立東陽中学校の「生徒指導研究発表会」で発表された心理教育「サクセスフル・セルフ」もいじめ予防を目的とした積極的・開発的生徒指導の一つであり、倉敷市教育委員会も推進しています。



理論や客観的指標に基づいた支援

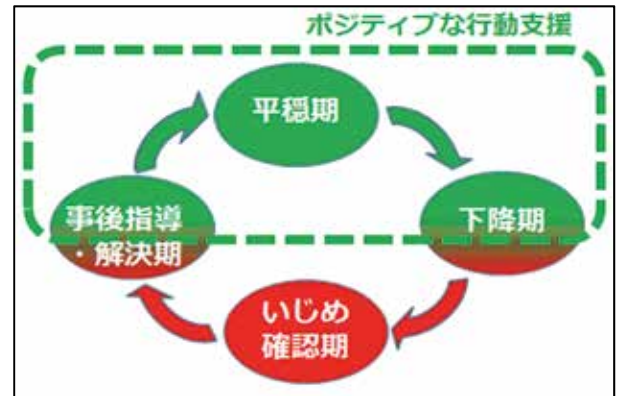
これまでも、人権教育における環境づくりでは、「ふわふわ言葉の木」や「よいこと見つけカード」、また「人権弁論発表会」などが多くの学校で実践され、児童生徒の自尊感情を高めるなどの効果を上げてきました。教師は、これらの取組が、経験に基づいて、効果があることを実感し、実践してきました。ただし、それがどのような理論や客観的指標（エビデンス）に基づいて効果があるのかということについて、根拠を求めることはそれほどなかったように思われます。

そこで、これらの実践の背景となる様々な理論を学級経営に活用し、ポジティブな行動支援を充実させることで、いじめの未然防止に取り組みます。効果がある活動の土台（理論や客観的指標）が分かれば、より効果的な方法に高めるとともに、活動のバリエーションも増やすことができます。

本研究では、その土台を行動の理論である「応用行動分析」に求め、ポジティブ行動支援（PBI S）や解決志向アプローチという具体的な手法によって、児童生徒の適切な行動を増やし、それによって、いじめという問題行動を未然に防止しよう、いじめからできるだけ遠ざかろうと考えました。

いじめに関する段階

いじめに関しては、いくつかの段階があると考えます。まずは、いじめの起きにくい安定した「平穏期」、次にいじめにつながる兆候がみられる「下降期」、そしていじめが認められる「いじめ確認期」、さらにその後のいじめの解消を図る「事後指導・解決期」と捉えることができます。



段階に応じた指導・支援

指導・支援は、各段階に応じて適切に行われる必要があります。

「いじめ確認期」には、いじめの実態を把握し、加害・被害を明らかにし、児童生徒ばかりでなく保護者にも説明し、解決に向けて指導することが求められます。この段階では、発生したいじめ問題を解決するために、問題対処型の指導が効果を発揮すると考えられます。ポジティブな行動支援は、すべての時期で有効なオールマイティーな支援ではなく、「事後指導・解決期」から「平穏期」、「平穏期」、そして「下降期」から「平穏期」における支援、つまり、いじめが発生していない段階で特に有効であると考えます。ポジティブな行動支援を有効に活用して、児童生徒の望ましい人間関係を構築し、「いじめの未然防止」に努めることが大切です。

人権教育とポジティブな行動支援

人権教育の目標は、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」であると「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」（H20 文部科学省）に述べています。さらに、それが具体的な態度や行動に現れるように指導することが求められています。ポジティブな行動支援は、適切な行動を具体的に取り上げ増やす実践であることから、人権教育の目標を実現するための具体的な方法を提供してくれると考えています。下の表は、人権教育の目標とポジティブな行動支援との関連を三つの視点でまとめたものです。

	人権教育の目標「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」		
	多様性の尊重	当事者性の認識	自尊感情の育成
ポジティブな行動支援とのつながり	よいところ、できているところに着目することで、違いもよいことと捉えることができます。様々な違いを認め合うようになれば、多様性を尊重する心情は高まります。	自分のよさを見つけてもらうことで、友達のよさも見つけるようになり、様々な人権課題から、自分の成長に生かすことができるよさを見つけていく姿勢が、当事者性の認識を高めることにつながります。	自分のよさを認めてもらうことで、自尊感情が育ちます。自分一人が大切と思う気持ちではなく、他の人も大切と思い、他の人への感謝の気持ちが生まれたときに、自尊感情はさらに高まります。

基本的な考え方（ポジティブ行動支援：P B I S / P B S）

P B I S（Positive Behavioral Interventions and Supports）は、ポジティブな指導・支援により適切な行動ができる環境をつくり、適切な行動を増やす積極的・開発的な生徒指導の一つです。

（1）適切な行動を増やすことで不適切な行動を減らす

児童生徒一人ひとりのすべての行動のうち、不適切な行動以外は、すべて適切な行動と捉えます。目指すところは、もちろん適切な行動の割合を大きくすることです。

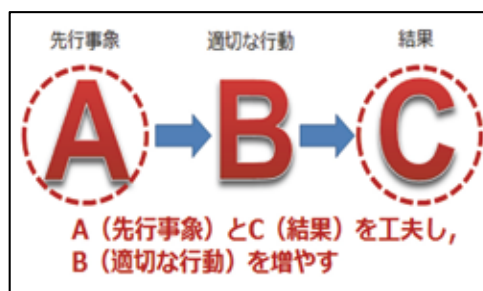
この適切な行動の割合を増やすためには、不適切な行動に着目し、それをなくしていくという指導から、児童生徒のできているところや適切な行動に着目し、それを増やすことで、不適切な行動を減らすという考え方への転換が必要です。適切な行動と不適切な行動を同時に行うことはできませんから、どちらかが増えれば、どちらかは減ることになります。これが、ポジティブな行動支援の土台となります。



（2）行動は、環境との相互作用で変化する

行動を単独で捉えるのではなく、その前後も含めて行動を捉えます。行動の前には、行動を引き出す「先行事象」があります。行動が繰り返されるのであれば、行動の後には、行動が繰り返されやすくなる出来事である「結果」が存在します。「先行事象」と「結果」は行動を変化させる環境であり、「行動は、環境との相互作用で変化する」と捉えます。

もし、適切な行動が行われていても、それに何の刺激もされなければ、その行動は消去（なくなっていくこと）されます。そこで、行動前の「先行事象」と、行動後の「結果」を工夫することで、適切な行動を増やしていきます。



（3）データの活用で実践を確かなものに

児童生徒の適切な行動が増えているか、支援が効果的かどうかを経験（経験的指標）と感覚（主観的指標）で捉えるのではなく、定期的に客観的指標（データ）を基に検証することで、よりの確かな支援ができます。データには、量的データ（数や量としてカウントできるもの）と質的データ（感想やメッセージ等）があります。これらを有効に活用し、「見える化」することで教師にとっても児童生徒にとっても、活動のモチベーションの維持・向上につながります。

基本的な考え方（解決志向アプローチ）

解決志向アプローチは、うまくいっているところ・できていることに焦点を当て、そこを広げていき、良循環をつくることで、自分が望む解決の状態に導く方法です。

(1) グランド・ルール

- うまくいっているなら、変えようとするな →良循環を増幅
- 一度でもうまくいったなら、またそれをせよ →例外に着目
- うまくいかないなら、何か違うことをせよ →悪循環を断つ

(2) アプローチの方法と効果

「問題志向」の考え方は、不適切な行動（問題）は何かを見つけ、原因を探り、そこからその問題への治療法や対策・指導を実施する（問題を取り除く）ものです。この「問題志向」での指導は、学校現場でも深刻ないじめなど説明責任を果たす対応として必要なアプローチです。

それに対して、解決志向アプローチは、適切な行動（うまくいっているところ）は何かを見つめます。次に、解決像（望む解決の状態や未来の姿）がどのようなものであるかを具体化します。そして、その望む解決の状態に向けて具体的な目標を設定し、うまくいっていることや役に立っていることを積み重ねていくことで、自分が望む解決の状態を新たにつくっていきます。

「問題志向」の指導は、指導力に不安のある教師には難しい場合があったり、保護者の反発を買ったりといった副作用も考えられますが、解決志向アプローチは、誰もができること、そして、副作用が少ないというのが何よりも使いやすいところです。この解決志向アプローチは、児童生徒の自尊感情を高め、適切な行動を増やし、様々な人間関係づくりを促進する考え方であると言えます。

	問題志向	解決志向
アプローチの方法	不適切な行動（問題点、できていない点）に着目	適切な行動（うまくいっているところ、できている点）に着目
	問題の原因を探る（過去志向）	望む解決の状態を具体化する（未来志向）
	問題への対策を考えて指導	うまくいっていることを積み重ねる指導
	失敗の責任追及 （どうしてできないのか？）	成功の責任追及 （どうしてできるのか？）
効果	減点法 → 自損感情を高める	加点法 → 自尊感情を高める
	保護者の反発を買うこともある	保護者の協力が得やすい
	指導が難しい場合もあり副作用がある	誰もが指導できて副作用が少ない

(3) 解決への「リソース（資質）」は、誰もがもっている

誰もが、解決像に迫るための基となる「持ち味」とも言えるリソースをもっています。このリソースに自分自身が気づき、適切な行動を繰り返しながら、成功体験を積み重ね、自ら望む姿に向かっていくように支援していきます。

ポジティブな行動支援の具体例

学級経営においては、できるだけ早い時期から、学級担任が方針を示すとともに、取組をスタートさせることがポイントです。ポジティブな言葉や笑顔が学級の雰囲気を良好にします。

(1) 「学級開き」において

学級開きでの担任あいさつ

適切な行動を教師も児童生徒も共に見つけ、増やしていこうと呼び掛ける。

※ 進級メッセージ黒板にも反映できる。

- ① 皆さんは、一人ひとりがすばらしい力と可能性をもっていると思います。
- ② そのすばらしさについて、自分自身が気付いているすばらしさもあるし、気付いていないすばらしさもあります。
- ③ 先生は、今年一年間、皆さんのすばらしさについて、一つ一つ見つけていき、見つけたすばらしさは、皆さんに伝えていきます。
- ④ 皆さんも、クラスみんなのすばらしいところを互に見つけ合い、互いの力や可能性を最大限、伸ばすことができる学級にしましょう。

学年（学級）通信

第1号で「適切な行動を見つけ、増やしていくこと」を保護者に伝える。（次号から実際にあった児童生徒の適切な行動を掲載していく。）

※ 通信のタイトルにも反映できる。

子どもたちは、一人ひとりがすばらしい力と可能性をもっていると思います。そのすばらしさについて、自分自身が気付いているすばらしさもあるし、気付いていないすばらしさもあります。今年一年間、子どもたちのすばらしさについて、一つ一つ見つけていき、見つけたすばらしさを子どもたちや保護者の皆さんに伝えていきます。子どもたちと共にクラスみんなのすばらしいところを互に見つけ合い、互いの力や可能性を最大限、伸ばすことができる学級にします。

学級目標づくり

児童生徒の一人ひとりの「こんな学級にしたいたい」という思いを基に、一緒に目標を作る。

【P.12】

学級目標例

- ・ みんなのすばらしさが発揮できるクラス
- ・ 安全で安心できるすてきなクラス
- ・ みんながここに居ていいと思えるクラス
- ・ パワー全開で活気あるクラス
- ・ 一人ひとりのよさを伸ばすクラス
- ・ すてきなところを見つけるクラス

自己紹介カード

自分の好きなこと、得意なことや頑張っていること、宝物などを用紙に書いて掲示する。

ここに書かれたものは、自分に役立つリソース（資源）であり、持ち味・強みです。

掲示して終わりではなくこのカードを活用すれば、様々なよさを伸ばす取組ができます。



なんでもボランティア

教師は「〇〇をしなさい。」と指示するのではなく、「〇〇してくれる人はいませんか。」と投げ掛けてボランティアを募り、作業を手伝ってもらおう。

年度始めの児童生徒は、いつも以上にやる気に満ちています。ボランティアをしてくれた児童生徒をしっかりとほめることで児童生徒とつながっていきます。



よいこと家庭訪問

家庭訪問において、保護者に児童生徒のよいところを教えてもらい、共有することで、そのよさを伸ばしていく。

- ① 事前に学級通信等で、保護者に「家庭訪問で、お子様のよいところを三つ教えてください。」という宿題を出しておく。
- ② 保護者から聞いた児童生徒のよいところは、よいタイミングで子どもに伝える。
- ③ 次回保護者と話をするとき、そのよさが伸びたところを話題にする。

ポジティブな行動支援の具体例

教師がポジティブな視点で学級を見ると、児童生徒にもポジティブな姿勢が身に付きます。

(2) よいところ、できているところに着目

よいこと連絡帳

毎日、児童生徒が、連絡帳のメモ欄に「自分が頑張ったこと」等を一言ずつ書くようにする。

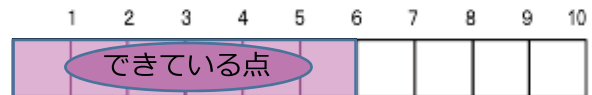
継続していくことで、自分のよさを蓄積することができます。その一言を基に、家庭では保護者が、学校では教師がほめていきます。教師のコメントがあると、児童生徒の意欲もより高まります。



スケーリング

目標やめあてを振り返るときに用いて、うまくいっているところを伸ばすようにする。

【P.14】



- ① 10段階の数値を用いて、今がいくつくらいの数値かを考える。
- ② その数値の内容（できている点）を考える。
- ③ 今できていることをもう少しふくらませると、どんなよいことが起きているかを考える。

よいこと電話

よいことが行われる環境をつくり、児童生徒のよいことを積極的に家庭連絡する。

家庭への連絡は、ネガティブな内容が多く、同じ児童生徒に集中する傾向があります。普段から、よいことにつながっておくことが大切です。連絡を迷った時は、これを伝えると、「安心されるかな」「喜んでもらえるかな」と考えて、進んで電話をします。

ポジティブ黒板メッセージ

下校後、その日よかった児童生徒の行動を黒板に書き、翌朝登校した児童生徒がそのメッセージを読む。【P.13】

日替わりで個人やグループの名前を出していくことで自尊心も高まります。

「〇〇さんがいてくれてよかった」と、存在そのものを認めるようなメッセージも織り込むこともできます。



リフレーミング

児童生徒のマイナス面をプラスに変換して伝え、児童生徒を勇気づける。【P.17】

単なる言葉遊びになると、あまり意味がありません。児童生徒の話共感的に聞き、相手を勇気づけたいという思いでリフレーミングして伝えることで、効果を発揮します。授業で児童生徒がリフレーミングを学び、自分や友達のことをリフレーミングすることも有効です。

ほめ言葉の「はがき」

児童生徒が、友達のよいところや頑張りをほめるメッセージを、はがき（年賀状）に書いたものを郵送する。

- ① はがきの宛名に自分の名前、住所を書く。
- ② 教師が、全員のはがきを集めて、適当に配る。
- ③ 配られたはがきの宛名の友達にメッセージを書く。※②と③を繰り返す。
- ④ 六つの枠にメッセージが書かれたはがきを教師が集め、適当な時期に投函する。

ポジティブな行動支援の具体例

(3) 適切な行動を引き出す環境づくり

ポジティブな環境づくりは、児童生徒のポジティブな行動を引き出すと同時に児童生徒をほめる布石でもあります。

具体的な指示

抽象的な指示では、どのような行動をすればよいのか分からないこともある。具体的な行動を分かりやすく伝える。

「ちゃんと整理しましょう。」「きれいに並びましょう。」という指示でもそのとおりに行動できることはありますが、これだけでは、どのように並んだ方がよいのかが伝わらないことがあります。「前の人頭の頭が真正面に見えるように」「前ならえができるくらい間を空けて」等の具体的な指示であると伝わりやすいです。

適切な行動を学ぶ

児童生徒が、どのような行動がよいのかを、ロールプレイ等を通して具体的に学ぶ。(ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニング・サクセスフルセルフ等)【P.19】

学習の進め方(例)

- ① ある場面における、適切な行動を考える。
 - ② 考えた適切な行動で、役割演技(ロールプレイ)をする。
 - ③ 適切な行動を全員で確認する。
- ⇒ 日常生活に生かす。

見通しを示す

「①～、②～、③～」というように、順にどんなことをするのかを示す。同時に、写真等も活用するとわかりやすく示すことができる。

見通しをもつことで、安心感をもって行動できます。説明するだけでなく、可視化することでより分かりやすくなります。一度に複数の行動を示さず、一つずつ行動を提示するようにします。



行動チャートづくり

適切な行動を価値項目ごとに整理して、行動チャートを作成する。【P.18】

- ① 適切な行動を考える。
- ② 学級で大切にしたい価値を決める。
 - ※ 校訓、学校(学年、学級)目標から価値項目を挙げることもできる。
- ③ 行動チャートを作る。
 - ※ 付箋などを活用し、班で話し合いながら完成させると、行動チャートへの責任感が高まる。
 - ※ 「～しない」ではなく「～する/～しよう」という表現にする。
- ④ 定期的に振り返り、作り替える。

【行動チャート(例)】

価値項目	授業中	休み時間	給食時間	掃除時間
自分を大切にする	<ul style="list-style-type: none"> ・ あきらめずチャレンジする。 ・ ていねいに字を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の準備を整える。 ・ 廊下を歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残さず食べる。 ・ 姿勢よく座って食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黙って掃除する。 ・ 道具を大切に使う。
友達を大切にする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話す人の方を向いて聞く。 ・ 教え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな友達と遊ぶ。 ・ 困っている人を助ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助け合って準備、片付けをする。 ・ 適度な声の大きさで話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力して掃除をする。 ・ 下級生にやさしく教える。
あいさつを大切にする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はい」という返事をする。 ・ 「です」「ます」を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ありがとう」で感謝を表す。 ・ お客さんに会釈をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いただきます」「ごちそうさまでした」で感謝を表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はじめと終わりのあいさつを大きな声でする。

ポジティブな行動支援の具体例

(4) 適切な行動の強化

適切な行動も強化しなければ、なくなっていきます。強化の仕掛けを用意し、強化し続けることで適切な行動は繰り返され、増えていきます。

ほめる、認める言葉掛け

適切な行動をそのままにするのではなく、ほめたり、認めたりする。

場合にもよりますが、適切な行動後すぐタイムリーにほめることが効果的です。発達段階や個人によって受け止め方が違うので、その児童生徒に合ったほめ方を考えます。ほめることと同じく認めることも大切です。ほめる、認める言葉掛けの際は、笑顔が基本です。

ハッピーポスト

箱（ポスト）を設置し、児童生徒が、友達にしてもらってうれしかったことや、友達のすてきな行動を紙に書いて入れる。

入れられたものは、朝の会や帰りの会で学級全体で紹介したり、掲示したり、学級通信等で保護者に伝えたりすることで、みんなに認められ、またすてきな行動をしようという意欲を高めます。



ポジティブカード

児童生徒同士で、友達のすてきな行動をカードに書いて渡し、認め合う。【P.16】

児童生徒の個人ノート（ポートフォリオ）等に、渡されたカードを貯めていくことで、自分のよさに気づき、自尊感情を高めることができます。学校行事のときに実施することもできますが、日常的に継続して行うことで効果が高まります。

Good Behavior チケット

児童生徒の適切な行動をチケットに書いて渡し、渡された児童生徒はそのチケットを保護者に渡す。（GB チケットとも言う）【P.20】

ポジティブなメッセージを保護者に届けることで、児童生徒との関係ばかりでなく、保護者との関係もよくなります。



成功の責任追及

うまくできたことがあれば、「どのようにしたら、こんなことができるの？」と理由を尋ね追及していくことで、うまくできた行動を本人に帰して、自尊感情を高めます。

うまくできたことを追及することは、間接的にほめることになっています。

「どのように育てたら、こんなよいことができる子どもになるのですか。」と保護者に対して成功の責任追及をすることで、保護者の自尊感情を高めることもできます。

ご褒美（トークン）という目標

すてきな行動を書いたカードなどが目標数に達したら、児童生徒は、ご褒美（トークン）がもらえる。

ご褒美（トークン）を取り入れることで、すてきな行動を増やそうとするモチベーションが高まります。

ご褒美（トークン）としては、お楽しみ会等、ポジティブな活動が考えられます。



ポジティブな行動支援の具体例

(5) データの活用

いつ、どこで、何が、何回起きているかをカウントすることは、量的データになります。カードに書いた児童生徒のコメント・感想は、質的データになります。両方を組み合わせて、有効に活用します。

アセス

学校環境適応感尺度「アセス」は、六つの側面から学校適応感を捉える。

- ① 生活満足感…総合的な適応感
 - ② 教師サポート…教師からの支援
 - ③ 友人サポート…友達からの支援
 - ④ 向社会的スキル…友達関係をつくるスキル
 - ⑤ 非侵害的關係…拒否的・否定的でない友達関係
 - ⑥ 学習的適応…学習良好と感じている程度
- ※ いじめの未然防止には⑤との相関が高い。

欠席者及び保健室利用者数

欠席者や保健室を利用した児童生徒の数の経過を調べる。

学級に居場所があり、居心地のよい学級では、欠席者や保健室利用者が減る傾向にあります。教師は大まかな把握はできていますが、データで捉えることで、確かなものになるはずです。



生徒指導の諸課題に関する調査

暴力行為、器物損壊、いじめ、長期欠席等の件数の推移を調べる。

この調査は、すべての小・中学校で実施されています。月ごとの数値の推移を表やグラフに表すと変化が把握できます。すでに行っているデータを活用することで、負担なく調べることができます。



すてきな行動の可視化

すてきな行動を書いたカード等を掲示していき、増えるところを可視化する。【P.11】

児童生徒同士で、ねらう価値に合わせた適切な行動を見つけ合い、カードに書いて貼っていきます。カードが増える（量的データ）ことで、自分たちの頑張りが見えて意欲が高まるとともに、適切な行動がどのような行動か分かり（質的データ）、児童生徒に広がっていきます。

振り返り数値化グラフ

めあてにする適切な行動を決め、帰りの会で振り返り、できた人数や回数をグラフに表していく。【P.15】

できた人数ではなく、一人ひとりが自分の点数をつけて、その平均点を学級全体のグラフにすることもできます。グラフに、教師のコメントを加えることで、児童生徒の意欲を高めることもできます。

学校評価アンケート

年度末に行っている学校評価アンケート（児童生徒対象）を定期的に行うようにする。

学校評価アンケートは、「生徒指導の諸課題に関する調査」同様、すでに実施しているものです。今ある調査の回数を増やすことで無理なく取り組むことができます。



自分や友達のよさを実感して、ポジティブな行動へ

目指す児童の姿

自分や友達のよさを実感し、互いに認めることができるようにする。自分に自信をもち、ポジティブな行動を増やし、学校生活をよりよいものにするのできる児童の育成を目指す。

研究構想

◎関連学習

学級活動（5月）

「すてき」「やさしい」「がんばっている」をみつけよう。

- ・ 自分や友達のよさに着目（★きらきらレインボー）

★学級活動（10月）

ぼく・わたしのすてきをぱわーあっぷさせよう。

- ・ 今の自分のよさを生かしたマスコット作り

学級活動（11月）

じぶんのすてきをふりかえろう。

- ・ 「マスコットを生活に生かすことができるか」の振り返り

◎環境づくり

- ・ 教師のポジティブな言葉掛け
- ・ ポジティブ黒板メッセージ
- ・ クラスマスコットの呼び掛け

「ポジティブな行動」
を促す



成果と課題

学年当初から、教師はポジティブな言葉掛けを意識的に行ってきた。教師も児童も、今できている行動に着目することで、受容する雰囲気（素地）が育ってきた。特に「きらきらレインボー」では、自分が友達についてどう思ったかを素直に表現し、伝える手段として効果的であったと思う。友達からのメッセージが励みとなり、ポジティブな行動が循環してきている。今後、ポジティブな行動支援を低学年から高学年まで系統立てて取り組むことで、一層の効果が期待できると感じた。

倉敷市立万寿小学校 第1学年

★きらきらレインボー

「すてき」黄色、「やさしい」桃色、「がんばっている」緑色の色ごとに分けて、友達のよいところを書く。

- ・ 一緒に勉強できて、楽しかったよ。
- ・ 友達になれて、うれしいよ。
⇒自分がよかったことを中心に。

「うれしい」橙色（7月～）、「たのしい」赤色（10月）を追加して書く。

- ・ いつも姿勢がいいね。
- ・ 苦手なものも頑張って食べていたね。
⇒友達のよい行動に着目するように。



よい行動を意識する。
自分のよさに気付く。



【きらきらレインボー掲示】

★学級活動（10月）

ぼく・わたしのすてきみつめ～ぱわーあっぷが大きくせん～

ぼく・わたしのすてきを ぱわーあっぷさせよう。

- 友達や先生からメッセージをもらい、読む。
- 自分のよさを生かしたマスコット作りをする。
 - ・ 挨拶をもっと頑張りたいな。
 - ・ そうじを静かに頑張るよ。



- 出来たマスコットを基に、友達と交流をする。
 - ・ すてきなマスコットだね。



自分のよさをもっとよくしたいという「ポジティブな行動」を繰り返すための意欲付けに。

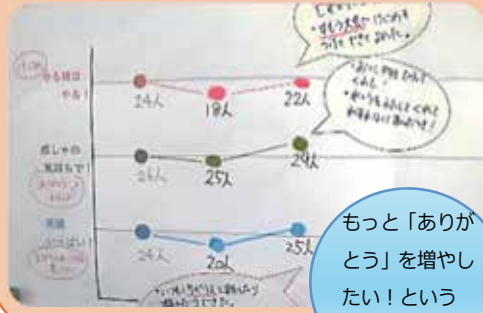
「ありがとう」で心もクラスも笑顔いっぱい

目指す児童の姿

友達のよいところに気付く心をもち、友達が頑張ったことやできるようになったことを一緒に喜んだり、クラスのために自主的に行動したりすることができる児童に育てていきたい。

研究構想

- 学年目標
「やる時はやる
感謝の心で笑顔いっぱい」
- 目標を達成する方法の話合い
→行動チャートの作成
- 振り返りの見える化



**感謝の心で！
～クラスをありがとうで
いっぱいにして～**

- ① 教師が児童のよいところに着目
 - ◇ 「にこにこレター」
 - ◇ 「笑顔の花」
- ② 児童が友達のよいところに着目
 - ◇ 「ありがとうみつけ」
 - ◇ 「ありがとうの花」
 - ◇ 「ありがとうバンク」

成果と課題

ポジティブな行動支援を意識的に行うことで、自然に友達のよい行動に着目するようになり、教師に伝えにくる場面も増えていった。1学期に比べ、友達間のトラブルも格段に減らすことができ、児童自身もクラスの雰囲気がよくなっていることを実感することができている。よい行動を増やしていくには、行動チャートなどを用いながらめあてを考え、一つ一つの取組の目的意識を明確にして行っていくことが大切だと思った。

倉敷市立赤崎小学校 第4学年

感謝の心で！ ～クラスをありがとうでいっぱいにして～

感謝をしたりされたりすることの気持ちよさを実感するために、次のような取組を行った。

ありがとうみつけ

クラス全員が円になり、隣に座っている友達の普段の様子を思い出しながら「ありがとう」の気持ちを伝えてボタンを回していく。誰が隣になっても「ありがとう」が言えるように、友達のよいところを見つけながら生活することができた。

ありがとうの花

友達への感謝の気持ちを手紙に書いて、掲示をした。自分が直接何かをしてもらった時にはピンクの花、友達がクラスのために進んで行動しているのを見つけた時には紫の花を使うなど、分けて書くようにした。



ありがとうバンク

自分が「ありがとう」と言ったらシールを貼っていく。グループ対抗にすることで、いつも以上に感謝の言葉を意識して使うことができたようにした。



規律・友情・奉仕・感謝（山の学習）

山の学習では、「規律・友情・奉仕」に「感謝」をめあてに加えて活動した。

	学習	規律・奉仕	友情
授業中	先生の話をよく聞き、自分の意見を言えるようにする。	自分の役割をしっかりと果たす。	友達の良いところを見つけ、感謝の気持ちを伝える。
休み時間	静かに遊ぶ。	友達と協力して遊ぶ。	友達と仲良く遊ぶ。
そらし	先生の話をよく聞き、自分の意見を言えるようにする。	自分の役割をしっかりと果たす。	友達の良いところを見つけ、感謝の気持ちを伝える。
結果	先生の話をよく聞き、自分の意見を言えるようになった。	自分の役割をしっかりと果たすようになった。	友達の良いところを見つけ、感謝の気持ちを伝えるようになった。

事後の学級活動では、この4観点について、スケーリングを活用しながら、振り返った。これからの学校生活に山の学習の経験が生かせるように、自分の行動チャートを作った。

【これからの私の行動チャート】

すてきな行動の可視化～みんなで作って、みんなで確認～

目指す児童の姿

互いのよさや違いを認め合い、尊重し合える温かい雰囲気の中で、児童の自己肯定感や所属意識が高まり、だれもが安心して過ごすことができる。

研究構想

環境づくり

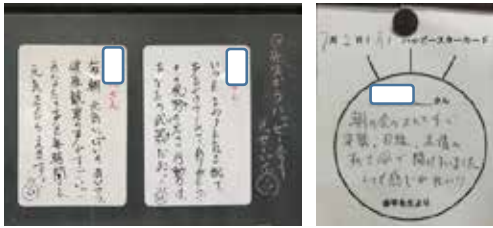
- すてきな行動の可視化
- 活動チャートの作成、反省

活動

- 学級目標・学級マーク作り
- ハッピータイム（帰りの会）
 - ・ 「よいとこ見つけ」
- ブリーフセラピー（学級活動）
 - ・ 友達のよさを伝え合う活動
 - ・ 自分のよさに気づき認め合う活動
- 行事（運動会、山の学習など）
 - ・ 行事のすてきな行動を確認（事前）
 - ・ スケーリングでの振り返り（事後）

教師の支援

- 教師の話・声掛け
- ハッピースターメッセージ
- ハッピースターカード



☆温かい学級 ☆互いの尊重
☆自己肯定感・所属意識の高まり

成果と課題

学級開きをしたころは、友達のよくない行動の報告が多く、マイナス面に着目する傾向があったが、次第に友達のよいところを探したり、認めたりする様子が見られるようになった。これは、目指すべき姿やすべき行動をみんなで決めて明確にしたこと（可視化①）、そして、そのような行動を賞揚し続けたこと（可視化②）の成果だと思われる。これらの行動支援は、自己肯定感や学級への所属意識の高まりにも効果があったと感じられた。今後は、個々に応じた行動支援をより重視していきたい。

倉敷市立船穂小学校 第4学年

① 目指す姿、すべき行動の可視化「行動チャート」

- 増やしたいすてきな行動を出し合う。
- 学級で大切にしたい価値を決める。
- 各生活場面での価値に関する行動を考える。

一人ひとりの思いがこもった「行動チャート」完成

4年4組 行動チャート ver.3 ～みんな探く36人のハッピースターに向けて～

場面	自分	友達	先生	仲間・もの
朝来たら	くつぎを脱ぎ ・自分の名前を覚えておいて ・忘れにでも思い出さず	自分の名前を覚えておいて ・忘れにでも思い出さず	みんなの行動を確認する	・日：1日までに準備完了 ・服装整頓（靴・ロッカー）
始業時	スピーチや挨拶のしぐらなど ・挨拶のしぐら ・リアクションをとる ・学級目標を自分からハイタッチ	・思いはフルーを伝えよう ・リアクションをとる ・学級目標を自分からハイタッチ		スピーチを覚えておく
授業中	・発表する ・質問を返す	・先生の話を聞いて聞く ・リアクションをとる ・ペアワークでしっかりと話す		準備をしていて チャームで待つ
休み時間	遊び場所を作る	きらいな遊びを ・遊ぶ場所を作る ・遊ぶ場所を作る		遊び場所を作る ・遊ぶ場所を作る
給食時間	残さず食べる	残さず食べる		・お礼の言葉を言う ・お礼の言葉を言う
下校時	静かにする	早く帰ったら帰る		・お礼の言葉を言う ・お礼の言葉を言う
帰りの会	だれもが発表する	早く帰ったら帰る ・お礼の言葉を言う ・お礼の言葉を言う		発表する 発表する

こんな行動をすればいいんだ。

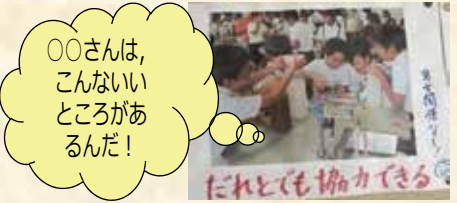
その日や週に、特に力を入れる価値を決めて生活

② 賞揚すべき姿の可視化「グラフ」「写真」



個と学級で振り返り
がんばりグラフ掲示

チャートを意識した行動
手本となる行動
⇒写真撮影して紹介
⇒コメントを付けて掲示



スケーリングとエンジェルハートで楽しい学級づくり

目指す児童の姿

安心して楽しく生活することができる学級にしていき、自己肯定感を高め、自分に自信をもって行動することができる児童を育成したい。

研究構想

① 環境づくり

- ・ 行動チャート
- ・ エンジェルハート
- ・ クラスの楽しさスケーリング
- ・ 客観データを活用した振り返り（あいさつ、宿題、整列）

【日々の活動】

- ・ クラスミッション（行動チャート）
- ・ GB チケット
- ・ 今日のキラリ
- ・ ありがとうリレー



▲GB チケット

5年3組 2学期 行動チャート	課題	友達	積極
朝の会	身だしなみを整える	友達の挨拶を教える(挨拶練習)	みんなに促されるように挨拶(アポイント)
授業中	話している人の目を見る	友達の声に反応する	あいつと友だちをする
休み時間	教員・学年かは顔を確認	いろんな人と話せる	意図を伝える(意図を返す)
給食時間	食器は自分で洗って持つ	自分から声をかける	クラスのみんなと仲良くする
掃除時間	しすかにやる	自分ひとりでやる	自分のまわりをきれいにする
帰りの会	朝の約束をすばやく実行する	友達のはじめを褒める	チャームアップ

▲行動チャート

② 学級活動

- ・ 5年に組行動チャートを作ろう
- ・ ○○虫をやっつけよう（外在化）
- ・ GB チケットの交流
- ・ ぼく・わたしの行動宣言
- ・ 私は見ていた!あなたのキラリ（運動会バージョン）
- ・ 5年に組をもっと楽しいクラスにしよう

成果と課題

エンジェルハートの実践を繰り返すことで、友達の輪の広がりや男女間での交流の深まりが見られるようになった。また、休み時間に一人で過ごしていた友達にも気軽に関わることができる児童が増え、児童の学校生活に対する満足度も高まってきている。全体の取組を通して、児童が学校生活全般に前向きに取り組むことができるようになった。児童の振り返りやアセス（学校環境適応感尺度）の結果からも自己肯定感の高まりや学級生活への満足感、安心感が読み取れるようになった。

倉敷市立第二福田小学校 第5学年

クラスの楽しさスケーリング

今のクラスの楽しさを 1～10点で表そう。



どんな楽しいことがあるからその点数になったのだろう。

- ・ 仲のよい友達がいる。
- ・ クラスのいろんな人と関わっている。

どんなことが起こるとさらに1点アップするだろう。

- ・ 男女関係なく関われるようになるといいな。
- ・ クラスのみんなでたくさん遊びたいな。

エンジェルハート

くじびきをして自分の対象者「デスティニー（運命の人）」を決めておき、その人に向けて自分が「エンジェル（天使）」となって、よい行いをたくさんするという活動。

「デスティニー」役の友達に気付かれぬようカモフラージュで他の友達にも同じようによい行いをすることで、クラス全体によい行いや温かい声掛けが増えていくことが期待される。一週間で「エンジェル」が誰であったかを発表して互いに交流して振り返りを行う。

学級活動「5年に組をもっと楽しいクラスにしよう」

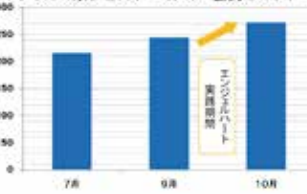
自分の「デスティニー」の楽しさスケーリングが1点アップするために、自分が「エンジェル」役としてどんなことができるかな。

- ・ 日頃あまり話さないけれど、友達と一緒に積極的に声を掛けにいってみよう。
- ・ クラスのみんなと遊びたいようだから、たくさんの友達を誘って一緒に外で遊んでみよう。

行動宣言をもとに一週間実践し、再度楽しさスケーリングを行う。結果を知り、自分たちの実践を振り返る。



クラスの楽しさスケーリング 合計ポイント



学級力でピカピカに！ 自分たちを磨こう！輝こう！

目指す児童の姿

レーダーチャートの項目にある「かんがえる子」「がんばる子」「やさしい子」「げんきな子」を目指す。また、各項目をすべて達成しようとする友達の姿を互いに励まし、認め、尊敬し合える人間関係を築いていきたい。

研究構想

- よいところ、できているところに着目した取組
 - ・ ほめ言葉のシャワー
 - ・ ハッピーレター
 - ・ 学級アンケート
 - ・ スケーリング
 - ・ 学級通信
 - ・ 黒板メッセージ
- 適切な行動を引き出す環境づくり
 - ・ 肯定的な行動チャート作り
 - ・ 善行の可視化
 - ・ ありがとうウィーク
 - ・ あったかハート週間
- 適切な行動の強化
 - ・ GBチケット
 - ・ トークン（ご褒美）

振り返り



めあて

学級会

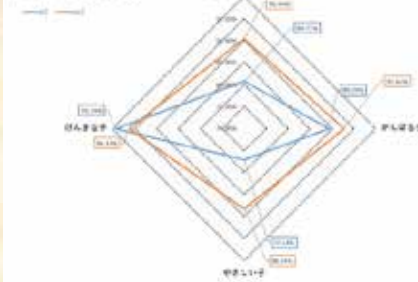
成果と課題

学年当初の学級会では、できていないところに着目した話合いだった。しかし、日頃から肯定的な言葉掛けやよいところに着目した取組などを続けることにより、自尊感情や自己肯定感が高まり、学級会だけではなく日常の会話でも前向きな発言が増えた。また、友達の頑張りにも気付くことができる児童も増えた。研究に携わったことでポジティブな行動支援による様々な取組を知り、実践することができた。今回の研究をよりよいものにしていくために、これからは取組をもっと精選して学級づくりに反映させていきたい。

倉敷市立上成小学校 第5学年

○ 「かがやけ学級会」

かがやけ学級



アンケートを
基に、学級の実
態をレーダーチ
ャートで見える
化

↓
前の月よりも
上がった項目
に着目して話合
い活動を行う。

学級のみんなが**できていること**を
付箋紙に書き出す。

右側を歩ける
ようになった。

教室に入ったとき
にみんながあいさつ
をしてくれた。

グループや全体で話し合うことで付箋紙を分
類・整理して、**特にできていること**から来月に向
けて**頑張っていきたいこと**を決める。

「あいさつ」「協力」
「発表」ができている
な。来月はその三つを
頑張っていこう！



来月に向けて個人で頑張りたいめあてを決める。

私は、友達の意見を受け止めて
から自分の考えを言いたいな。

学級アンケートでめあてについて振り返る。

行動チャートを使って、適切な行動を引き出す環境づくり

目指す児童の姿

自分のよいところに気付き、前向きな気持ちで学習や活動に取り組もうとする心を育てたい。また、友達の良いところに気付き、認め合ったり、高め合ったりしようとする態度を育てたい。

研究構想

環境づくり

- 学年集会
- ポジティブ黒板メッセージ
- 自己紹介カード
- 行動チャートの作成
- ハッピーカードアルバム

日々の活動

- 輝いていた人の発表（帰りの会）
- 輝チケット
- 行動チャートを基に
→個々の振り返り
→クラスの振り返り



連関学習

学級活動「輝行動チャートをつくらう」

- ① 輝いている行動とは何か話し合う。
- ② 出された行動を全員で共有し、グルーピングすることで、学級で大切にしたい価値を決める。
- ③ 輝いている行動を、学級で大切にしたい価値と場面に分けて整理し、行動チャートを作る。

学級活動「行動を振り返ろう」

輝行動チャートを基に、自分や学級の行動を振り返る。

学級活動「輝行動チャートを見直そう」

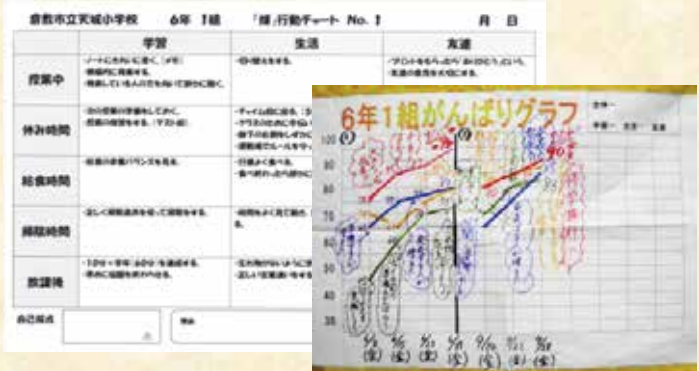
輝行動チャートを見直して、よりよいものを作る。

成果と課題

取組を通して児童が自分に自信をもち、よい行動を進んでするようになったと感じる。また、友達の頑張りに着目するようになり、一人ひとりのよさを認め合えるような関係を築くことができるようになってきた。けんかが起きたときも、以前よりも相手の考えを聞こうとしている。教師自身も児童のよい行動を探すようになっていたり、前向きな言葉掛けが増えたりするなど意識が変わってきた。今後ともポジティブな行動支援の考え方を取り入れて、どのような取組ができるか考えていきたい。

倉敷市立天城小学校 第6学年

輝行動チャート



作成した行動チャートを基に、個々やクラスの行動を振り返る。

児童の様子

- ・ 「あまり変わってない気がする。」と不安そうな児童が、できるようになったことがあることに気付き、満足そうな表情をしていた。
- ・ 「短い期間でも意識したらよくなるなあ。」「～がみんな結構できるようになったよなあ。」と話題にすることがあった。



適切な行動を具体的に表しているので取り組みやすかった。児童が自分の成長に気付きやすかった。

輝チケット

輝いている行動ができている児童に、教師から輝チケットにメッセージを書いて渡す。

児童の様子

- ・ 休み時間などにチケットのことを友達と話していたり、よい行動をしている友達がいたら「チケットがもらえるかもなあ。」と声を掛けていたりした。
- ・ チケットをもらったことで自信につながり、また同じような場面にあったときによりよい行動をしようとしていた。周りの児童も、どんな行動がよいのか分かり、まねをしていた。
- ・ 自分で輝チケットを作り、友達に渡そうとする児童も出てきた。



友達の頑張りに気付き、友達のよいところを認めることができるようになった。

「ありがとう・よかったよカード」 & 「リフレーミング」であったか学級づくり

倉敷市立福田南中学校 第2学年

目指す生徒の姿

互いに存在を認め合い、互いに助け合うことができる、調和のとれたクラスにしていきたい。適切な行動が増え、自分たちで考えて動くことができる生徒になってほしい。

研究構想

自己紹介カード

カラー写真を使って見栄えよく掲示。本人の持ち味を發揮できるようなポーズで、ハイ、チーズ☆

★ありがとう・よかったよカード

どこかでだれかが見てくれている。友達のよいところを探して渡してみよう。「ありがとう」「よかったよ」がクラスに広がる。

★世界を変える！リフレーミング

見方や考え方を変えてみる。すると…
マイナスだと思っている部分も自分の持ち味に変身。自分も相手もリフレーミングによって温かい気持ちになれる。



今日のピカイチ

毎日帰りの会で、その日キラリと輝いていた人を日直が発表！みんなで拍手☆

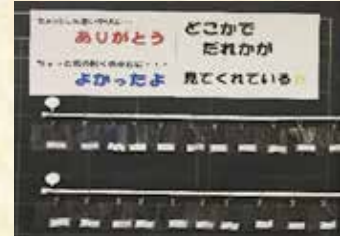
互いに認め合い、適切な行動がクラスに増える。
あったかクラスのできあがり！

成果と課題

「ありがとう・よかったよカード」は、コミュニケーションツールの一つになり、日頃話することがないクラスメイトにも気持ちを伝えることができ、互いを認め合うことにつながった。「リフレーミング」については、授業の時だけでなく、休み時間や部活動の時にも使おうとする姿も見られたことは一つの成果と言える。長期にわたり継続していくために、どう支援していけるかが課題である。何より大きな成果は、教師自身も生徒に「ありがとう」「よかったよ」と伝え、良好な関係を築くことができ、互いに居心地のよいクラスになってきたことを日々実感しているところである。

★ありがとう・よかったよカード

5月から取組開始！
まずは4月の1カ月を振り返って友達のよかったところを探してみる。



↓
クラス全員に行き渡り、スタート

1人10枚で表彰・クラス100枚でご褒美を目標に

- ☆ 進んでよいことをしようとする人が増加
 - ☆ 意外な人からのカードに驚き、そして喜び
 - ☆ 先生から生徒に、生徒から先生に
 - ☆ 学級委員が学期末にクラス全員に
- ⇒いつしか2年1組のコミュニケーションツールに

★世界を変える！リフレーミング

クラスも軌道に乗ってきた9月に、さらにクラスを温かくするために授業を実施。

まずは例題でリフレーミングの練習！
続いて、自分のマイナス面をみんなでリフレーミング



目の前の事しか見えない	熱心！集中できる！
後先考えない	やる気がある！
こつこつするのが苦手	行動が起こしやすい！
ネガティブ	物事を深く考えられる！

生徒の感想より

- ☆ リフレーミングをした人も、された人もとても気持ちよくなった。
- ☆ マイナス面だと思っていたことも持ち味に変わり、前向きになれた。
- ☆ 今まで苦手だと思っていた人とも仲よくできそうな気がしてきた。

行動チャートを活用し、【和】を大切にしたクラスづくり

目指す生徒の姿

具体的な見通しをもち、自他のよさや違いを認め、共有することで、クラス目標【和】の意味である「①おだやかに ②仲良く ③合わせる」ことのできる生徒を育てる。

研究構想

○ 環境づくり

- ・ 学級目標作り & 掲示
- ・ Good behavior の発表 & 掲示
- ・ よいところ探し (行事ごと)
- ・ 行事ごとの行動チャート, 振り返りや写真の掲示
- ・ クラスの雰囲気グラフの掲示



自他のよさや違いを認め、共有する



○ 関連学習

- ・ 仲間づくり (グループワーク)
- ・ 言葉の使い方 (LINE を通して)
- ★ 「和」を大切にしたい行動チャートづくり
- ・ スケーリング & 振り返り



自他のよさや違いを認め、共有する具体的な見通しをもつ

成果と課題

周りの意見に左右されず、自分の意見を伝えることができる生徒が増えてきた。学級活動では、進んでグループのリーダーになって発表しようとする生徒も増えている。これは自他のよさや違いを認める活動を繰り返し行うことで、クラスに「和」を大切にしたい雰囲気が現れてきたからだと考えられる。また、学級会で行事ごとに行動チャートを作成することにより、クラスの一員として、積極的によいものにしてほしいという行動が見られるようになった。具体的な見通しをもち、自他のよさや違いを認めることができる生徒を育てるための活動をこれからも継続していきたい。

倉敷市立多津美中学校 第2学年

「和」を大切にしようとするみんなの思い
その思いを伝えるには？



行動 (形にして) で表そう！



どんな行動で伝わる？どんな行動がステキ？

行事ごとの「和」を大切にしたい行動を考えよう！

★学級活動

「クラス目標と神戸研修の目的を踏まえて、神戸研修のステキな行動を考えよう」

Point!!

- 「～しない」ではなく「～する」というプラスの表現にする。
- 達成率の目標を 70% (good) 50% (better) 30% (best) の 3 段階に設定する。
- 「できないといけない」ルールではなく、「できたらステキ」なモデルとして行動チャートを作成する。



神戸震災学習の行動チャート



	学ぶ 姿勢・気持ち	協力 思いやり	態度 マナー
班	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを思い出し、神戸の情をしっかりと見る 道徳への過程を想う 人々の涙を思い感じながら学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 電車の中では席をゆずる 班長の話を最後まで聞く ごまかに時間を知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> 急に立ち上がり、足で踏んで行動する 自分のゴミは自分で管理する 現金袋の整理を聞き、みんなで行動する
式見参 典学参	<ul style="list-style-type: none"> 話してくれる人の目を離さず話を聞く 被災した人の気持ちを感じる 素直な気持ちで話を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 司りの人に思いやりをもって静かに行動する 整列にならぬように早く 大きな声で言う 	<ul style="list-style-type: none"> 見学中は取りに合わせ行動する 服装に気を付ける 話をしている人がいるときは静かに話を聞く
ホパ スル	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみすぎず、被災のことを考える 避難経路を確認する 第1応急拠所を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 荷物を整頓する 各班グループにならないようお互いに気を使う お風呂など、次の人が気持ちよく使えるように設備を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする 後片付けをする 声の大きさを考える

PBIS を活用したソーシャルスキルトレーニング

目指す生徒の姿

思いやりの気持ちをもって他者と能動的かつ適切に関わることができ、関係を広げたり深めたりすることができる生徒の育成を目指す。

研究構想

ステキな行動チャートづくり

適切な行動を行うきっかけ

ソーシャルスキルトレーニング

- ・ 話合いの方法 (4月)
- ・ あいさつ (5月)
- ・ 上手な説明の仕方 (5月)
- ・ よさを見つける (6月)
- ・ あたたかい言葉かけ (7月)
- ★ ステキな行動のデモムービーをつくろう (10月)

ステキな行動実践シート
振り返り

適切な行動が
繰り返される
支援

データによる研究・評価

配慮・関わり
アップ!



hyper-QU (ソーシャルスキル) 結果

成果と課題

ソーシャルスキルトレーニングを進めていく中で、「親しき仲にも礼儀は大切だ」、「きちんと関わる方法を知ることに関わることが楽しくなった」など、ポジティブな発言や感想が増えてきた。また、hyper-QUを見ると、配慮をもって積極的に関わろうとする生徒が1.91倍に増えていた。PBISを活用することで、生徒の望ましい行動を無理なく引き出し、育てることができたと思う。今後は、学級経営、生徒指導、道徳など、様々な場面においてPBISの活用を模索していきたい。

倉敷市立下津井中学校 第2学年

★学級活動『ステキな行動のデモムービーをつくろう』

- ステキな行動チャートを使って、学級で大切にしたい価値とそれを実現するための行動を確認した。

ステキな行動チャート

	挨拶	礼儀	礼儀
意識中	・アートを大切に扱っている。 ・積極的に参加している。 ・授業で何か新しいことを実践している。	・机の上をきれいにしている。 ・静かに話を聞いている。 ・先生の話をよく聞いている。 ・授業中しゃべりすぎている。 ・授業中寝ている。	・何か新しい価値観を思いついている。 ・議論に参加している。 ・先生の話をしっかりと聞いて進んでいる。 ・意見を述べている。
実践中	・自分の意見を述べている。 ・授業中寝ている。 ・授業中しゃべりすぎている。	・机の上をきれいにしている。 ・静かに話を聞いている。 ・先生の話をよく聞いている。 ・授業中しゃべりすぎている。 ・授業中寝ている。	・何か新しい価値観を思いついている。 ・議論に参加している。 ・先生の話をしっかりと聞いて進んでいる。 ・意見を述べている。
振り返り	・早く終わって、授業アートを清潔に保っている。 ・授業中寝ている。 ・授業中しゃべりすぎている。	・机の上をきれいにしている。 ・静かに話を聞いている。 ・先生の話をよく聞いている。 ・授業中しゃべりすぎている。 ・授業中寝ている。	・議論に参加している。 ・先生の話をしっかりと聞いて進んでいる。 ・意見を述べている。
評価	・授業中寝ている。 ・授業中しゃべりすぎている。	・机の上をきれいにしている。 ・静かに話を聞いている。 ・先生の話をよく聞いている。 ・授業中しゃべりすぎている。 ・授業中寝ている。	・議論に参加している。 ・先生の話をしっかりと聞いて進んでいる。 ・意見を述べている。

適切な行動を行うきっかけ

- 班でステキな行動の具体的な場面を考えさせ、役割分担、練習、発表(撮影)をさせる。
 - ・ ポジティブな行動にだけ着目させる。
 - ・ 発表に対して担任や生徒が賞賛の拍手を送る。

休み時間のステキな行動



次の時間の用意しよう



適切な行動が繰り返される支援

- ステキな行動を日常生活でどれだけ実践できたかを記録したり、デモムービーを視聴したりして振り返る。
 - ・ ステキな行動が実践できた生徒を賞賛する。
 - ・ デモムービー視聴を通して、達成感や自己肯定感を高め、メタ認知を鍛える。



適切な行動が繰り返される支援

SW（スクールワイド）PBIS への取組

目指す生徒の姿

適切な行動に着目し、他者の行動を認める活動を通して、そのよさに気づき、意欲的に適切な行動をすることができる生徒を育てたい。

研究構想

PBIS の効果について研修し、共通理解を図る。(教師)

- よいところ・できているところに着目した取組を行う。
(生徒—生徒, 教師—生徒)
- 適切な行動を強化する取組を行う。
(教師—生徒)
- 適切な行動を引き出す環境づくりを行う。
(教師)

好循環を

他者の適切な行動を認めるよさに気づく生徒の増加

生み出す

他者を傷つける行動をする生徒の減少

倉敷市立真備中学校

教職員の共通理解を図る

4・6月の研修内容

- ・ PBIS の紹介
- ・ PBIS から考えられる研究仮説の紹介
- ・ 具体的な取組の提示
- ・ 研究にあたっての心構えの確認
- ・ 仮説立証に向けて考えられる問題点の Q&A 紹介
- ・ 取組と研究のつながりについての紹介
- ・ アセスの見方と活用法の紹介
- ・ 学校の生徒指導の柱とすることの周知

4月の研修前には、Good Behavior カードの利用についてのアンケート結果（生徒・教職員）を示したことで、この取組への負担感が軽減できたのではないかと考える。

また、職員室では、生徒のよいところに焦点を当てた会話が増え、雰囲気明るくなっていったと感じる。

被災後の生徒たちは…

順調に学校生活への満足が高まっていた中で被災により、満足感が下がってしまった。

しかし、生徒から「Good Behavior カードの再発行はありますか？」と言われた。困難な状況下で、生徒が一学期の取組を覚えていてくれたこと、その効果を期待してくれた言葉にうれしさを感じた。

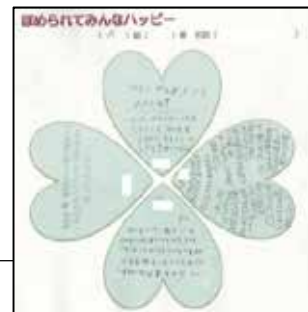
4月 PBIS についての教職員研修

5月 宿泊研修におけるよいところ探し、班長会の活用、担任から生徒へ「ステキカード」〔1年〕
広島平和学習ルール・マナーにおけるリフレーミング（「～しない」→「～しよう」）〔2年〕
修学旅行での生徒間での Good Behavior カード〔3年〕

6月 PBIS（理論的背景・事例紹介等）についての再研修（人権教育推進室 松本一郎室長）
Good Behavior カード設置場所の増加

(7月 西日本豪雨による被災)

10月 帰りの会で「一日のありがとう」〔1年〕
「ステキ発見カード」, 「ハッピークローバー」の実施〔2年〕
「I LOVE MY CLASS」の実施〔3年〕



成果と課題

「前向きになる言葉を使うこと」「適切な行動を見つけようとする」と、生徒同士や生徒と教師の関係が良好になり、適切な行動が増加しているように感じる。一方で、指導が必要な場面ではどのような言葉掛けをすればよいのか戸惑う場面も見られた。失敗を指摘するような言葉掛けを減らし、理想とする姿の提示や「今の姿でよいのか」を問い掛けるなど、失敗しても、「自分は期待されている」という実感が得られるような支援の工夫を続けたい。

参考資料

- 『人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕』文部科学省 2008年
- 『生徒指導提要』文部科学省 2010年
- 『ポジティブな行動が増え、問題行動が激減！ PBIS 実践マニュアル&実践集』栗原慎二編著
ほんの森出版 2018年
- 『CD-ROM 付き！ワークシートでブリーフセラピー 学校ですぐ使える解決志向&外在化の発想と技法』
黒沢幸子編著 ほんの森出版 2016年
- 『できる！をのばす 行動と学習の支援 応用行動分析によるポジティブ思考の特別支援教育』
山本淳一・池田聡子著 日本標準 2007年
- 『心理学 de 学級経営 ポジティブ学級に変える！解決志向アプローチ入門』岩田将英著 明治図書出版
2015年
- 『参画型マネジメントで生徒指導が変わる－「スクールワイド PBS」導入ガイド 16 のステップ－』
石黒康夫・三田地真実著 図書文化社 2015年
- 『解決志向のクラスづくり 完全マニュアル チーム学校, みんなで目指す最高のクラス！』黒沢幸子・
渡辺友香著 ほんの森出版 2017年
- 『認知行動療法とブリーフセラピーの接点』津川秀夫・大野裕史編著 日本評論社 2014年
- 『学校でフル活用する認知行動療法』神村栄一著 遠見書房 2014年
- 『アセス（学級全体と児童生徒個人のアセスメントソフト）の使い方・活かし方 CD-ROM 付き！
自分のパソコンで結果がすぐわかる』栗原慎二・井上弥編著 ほんの森出版 2016年
- 『菊池省三 365 日の学級経営 8つの菊池メソッドでつくる最高の教室』菊池省三著 明治図書出版
2018年
- 『月刊学校教育相談 2018年5月号』「学校の力を再生する PBIS の魅力」松本一郎 ほんの森出版
2018年
- 『マルチレベルアプローチ だれもが行きたくなる学校づくり 日本版包括的生徒指導の理論と実践』
栗原慎二編著 ほんの森出版 2017年
- 『児童生徒のいじめ・うつを予防する心理教育“サクセスフル・セルフ”第2版』安藤美華代著
岡山大学出版会 2015年
- 『現代生徒指導論』日本生徒指導学会編著 学事出版 2015年
- 『たった1分で相手をやる気にさせる話術 ペップトーク』浦上大輔著 フォレスト出版 2017年
- 『子育てに活かす ABA ハンドブックー応用行動分析学の基礎からサポート・ネットワークづくりまでー』
井上雅彦監修 三田地真実・岡村章司著 日本文化科学社 2009年
- 『メリットの法則 行動分析学・実践編』奥田健次著 集英社 2012年
- 『学校で活かすいじめへの解決志向プログラム 個と集団の力を引き出す実践方法』スー・ヤング著
黒沢幸子監訳 金子書房 2012年
- 『いじめを生む教室 子どもを守るために知っておきたいデータと知識』荻上チキ著 PHP 研究所
2018年
- 『学校全体で取り組むポジティブな行動支援 スクールワイド PBS』徳島県教育委員会・東みよし町教育委員会・
徳島県立総合教育センター 2018年
- 『良いところ褒め絆強化 総社市立総社西中学校』山陽新聞 2016年3月7日
- 『褒めて伸ばす「善行チケット」 岡山市立福浜中学校』山陽新聞 2018年3月7日
- 『心つなぐチケット 総社市立総社西中学校』NHK総合「おはよう日本」 2018年4月10日

本冊子のデータファイル及び関連する学習指導案等のデータファイルは、倉敷市ホームページと倉敷市教育委員会情報共有システムに登録されています。必要に応じてダウンロードしてお使いください。

倉敷市ホームページ

…本冊子のデータファイル

倉敷市> 市の組織> 教育委員会> 人権教育推進室> 人権教育実践資料>

<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/30449.htm>

人権教育実践資料4 ポジティブな行動支援によるいじめの未然防止

倉敷市教育委員会情報共有システム

…本冊子のデータファイル、関連する学習指導案のデータファイル

広場に行こう！> 3 様式・事務手引の広場> 様式・事務手引のキャビネット>

002-1 人権教育推進室（指導資料）>

004 人権教育実践資料4 ポジティブな行動支援によるいじめの未然防止>

00 人権教育実践資料4 ポジティブな行動支援によるいじめの未然防止

- 01 万寿小 第1学年「自分や友達のよさを実感して、ポジティブな行動へ」
- 02 赤崎小 第4学年「『ありがとう』で心もクラスも笑顔いっぱい」
- 03 船穂小 第4学年「すてきな行動の可視化～みんなで作って、みんなで確認～」
- 04 第二福田小 第5学年「スケーリングとエンジェルハートで楽しい学級づくり」
- 05 上成小 第5学年「学級力でピカピカに！自分たちを磨こう！輝こう！」
- 06 天城小 第6学年「行動チャートを使って、適切な行動を引き出す環境づくり」
- 07 福田南中 第2学年「『ありがとう・よかったよカード』 & 『リフレーミング』であったか学級づくり」
- 08 多津美中 第2学年「行動チャートを活用し、【和】を大切にしたクラスづくり」
- 09 下津井中 第2学年「PBISを活用したソーシャルスキルトレーニング」
- 10 真備中 学校全体「SW（スクールワイド）PBISへの取組」



平成30年度人権教育課題研究委員

万寿小学校	三宅 未来	第二福田小学校	光畑 俊輝
天城小学校	小野 詔子	赤崎小学校	鈴木 麻衣
上成小学校	岡野 洋次	船穂小学校	金平 健太
多津美中学校	和田 歩	福田南中学校	野口 正行
下津井中学校	浅沼 雄太	真備中学校	熊澤 宏紀

人権教育課題研究事業について

学校教育に関わりの深い人権課題について実践的研究を進め、その成果を倉敷市内の各学校園に広げることにより、倉敷市の学校園人権教育の推進に生かすことを目的に、平成17年度より実施しています。

本資料は、学校園における実践に活用できるように、10名の人権教育課題研究委員の研究実践を基に作成したものです。

人権教育実践資料4 ポジティブな行動支援によるいじめの未然防止

倉敷市教育委員会 学校教育部指導課 TEL 086-426-3831
人権教育推進室 TEL 086-426-3803

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。